

第53回 発電用設備規格委員会 議事録

1. 日 時：2010年6月21日（月） 10:00～17:00
2. 場 所：日本機械学会 第1会議室
3. 出席者：森下（JAEA）、宮口（IHI）、波木井（東電）、湯原（東大）、鈴木（JAEA）、伊勢田（住友金属）、百々（原技協：AM）、高橋（電中研）、佐川（日立 GENE）、楠橋（JSW）、平岡（関電）、鈴木（中部電）、永井（東芝）、大島（経産省）、影山（東大）、加口（MHI）、木村（NIMS：AM）、小山（MHI）
代理者：三好（カワサキプラントシステムズ：島川委員）、松田（HSB ジャパン：川端委員）、今野（発電技検：吉田委員）、堂崎（東大：酒井委員）、大崎（JNES：佐藤委員：AM）、永田（日立 GENE：木村委員：PM）、齋藤（原技協：百々委員：PM）
欠席者：西脇（東大）、寺井（東大）、石丸（東電）、上田（経産省）、森（JEA）、中曽根（理科大）、増山（九工大）
オブザーバー：村部／太田（日本原電）、齋藤（原技協）、北条（MHI）、永田（日立 GENE）、杉江（原技協）、佐藤（JAEA）、阪田（OCL）、下条（神戸製鋼）、山田（中部電）、野村（関電）、山本（東芝）、加納／高坂（JNFL）、町田（テブシス）
事務局：高柳、稲垣、釜田
4. 配布資料：
 - 53-1：第52回発電用設備規格委員会議事録案
 - 53-2-1：発電用設備規格委員会委員名簿案
 - 53-2-2：発電用設備規格委員会投票状況等
 - 53-3-1：火力専門委員会委員名簿等
 - 53-3-2：原子力専門委員会委員名簿等
 - 53-3-3：核融合専門委員会委員名簿等
 - 53-4：発電用設備規格委員会第24回、第25回幹事会概要
 - 53-5：投票結果
 - 53-6-1～5：発電用原子力設備規格に関する公衆審査意見受付結果、質問受付及び回答状況
 - 53-7：火力専門委員会報告
 - 53-8：原子力専門委員会報告
 - 53-9：核融合専門委員会報告
 - 53-10-1：材料専門委員会報告
 - 53-10-2：規格委員会委員長と専門委員会委員長の任期に関する規約の解釈について
 - 53-11-1：J SME規格体系化推進計画「一般要求事項検討会」報告&審議用資料
 - 53-11-2：「規格委員会資料の取扱い内規」の提案
 - 53-11-3：技術評価における要件および要望に対する機械学会の検討状況について
 - 53-11-4：MDEP 対応状況報告
 - 53-11-5：「材料規格改訂方針検討タスク」の状況報告
 - 53-11-6：平成22年度活動計画（案）（原子力専門委員会）
 - 53-11-7：平成21年度活動実績報告書
 - 53-11-8：標準・規格センターに関する報告
 - 53-11-8-2：発電用火力設備規格の標準規格センターの承認について
 - 53-11-8-3：発電用核融合超伝導マグネット規格の英訳合本版発行に関する上位機関の承認について
 - 53-12：高クロム鋼クリープ関連項目の規格規定反映計画（案）
 - 53-13-1-1：発電用設備規格委員会投票（No. 131）の結果の通知について
 - 53-13-1-2～3：発電用設備規格委員会投票 参考意見に対する対応案（和文、英文）
 - 53-13-2：核融合設備規格 超伝導マグネット構造規格 正誤表
 - 53-14：溶接規格 事例規格案（母材のP-No 区分）
 - 53-15-1：設計・建設規格2010年追補版改訂案修正提案
 - 53-15-2：設計・建設規格（第I編）2008年版正誤表提案
 - 53-15-3：発電用原子力設備規格 設計・建設規格2010年追補版案に対する意見受付計画（案）

- 53-16-1：発電用設備規格委員会投票（No. 130）の結果の通知について
- 53-16-2：材料規格一次改訂作業フロー
- 53-16-3：材料規格一次改訂マスターシート
- 53-17-1：発電用設備規格委員会に対する回答
- 53-17-2：コンクリート部に作用する荷重
- 53-17-3：コンクリート製格納容器規格案に対する意見受付計画
- 53-18-1：金属キャスク事例規格案（キャスク用 3.5%Ni 材（2 件）の新規登録
- 53-18-2：金属キャスク構造規格 2010 追補版案
- 53-19-1：補修章の検査章・評価章との体系化及び技術基準との適合性の明確化
- 53-19-2：事例規格・ニッケル合金の PWR 一次系水質環境中の SCC き裂進展速度
- 53-19-3：検査章の改訂（目視試験の試験対象範囲）
- 53-19-4：応力拡大係数算出式の追加
- 53-19-5：耐圧試験規定の見直し
- 53-19-6：建設中の供用前検査実施時期
- 53-19-7：ピーニング方法の改訂
- 53-19-8：クラス 1 機器の欠陥評価関連規定の改正
- 53-19-9：事例規格・欠陥評価における JEAC4601-2008「原子力発電所耐震設計技術規程」の基づく地震動の扱い
- 53-19-10：検査章の改訂（質疑応答集の反映：5 件）
- 53-19-11：維持規格 2009 年追補版 正誤表
- 53-19-12：事例規格・ニッケル合金の PWR 一次系水質環境中の SCC き裂進展速度に対する意見受付計画（案）
- 53-20-1：再処理設備 設計規格（2010 年版）現行案（公衆審査版）と修正案との比較
- 53-20-2：再処理設備 設計規格（2010 年版）に関する発行計画（案）
- 53-21-1：ASME 規格関係委員会の活動状況報告

5. 議事内容

（1）開会

定足数の確保を確認し、森下委員長が委員会開会を宣言した。また出席者全員の自己紹介を行った。

（2）議事次第確認

議事次第案の確認を行い、変更の提案はなく承認された。

（3）前回議事録確認【資料 53-1】

前回議事録案の内容について意見、気付き事項の確認を行った結果、意見等はなく、議事録案は承認された。

（4）規格委員会及び専門委員会の委員の承認等【資料 53-2, 3】

事務局より、以下の通り規格委員会及び専門委員会委員の再任、退任、新任、三役候補が報告された。

・規格委員会

〔再任〕鈴木一委員、西脇委員 〔退任〕青木委員、宮野委員、山口委員、中村委員

〔新任〕村部氏（日本原電）

〔所属変更〕班目アドバイザー

・火力専門委員会

〔再任〕西村委員、三村委員、高塚委員 〔退任〕野本委員、椎名委員、山下委員

〔新任〕三原先生（富山大）、野井氏（ロイト・ヴィスター・ジャパン）、松本氏（パブ日立）

・原子力専門委員会

審議対象なし

・核融合専門委員会

- 〔再任〕 佐藤委員，西村委員
- ・材料専門委員会
- 〔退任〕 祐川委員（退任者のみのため審議対象外）
- オブザーバー／事務局退出後、上記委員の承認等が審議され、出席委員全員の賛成で承認された。

（５）発電用設備規格委員会活動状況報告

（５－１）規格委員会幹事会報告【資料 53-4】

波木井幹事より、第 24 回と第 25 回の規格委員会幹事会の概要として、コードエンジニア賞の受賞者決定、機械学会事務局支援関係、MDEP、材料規格改訂対応状況、Due Process の強化、認証・認定に関する事項、平成 21 年度事業報告案が報告された。

特記事項として、パブコメ実施に関する標準規格センターでの審議方法を「承認→報告」に変更提案する予定である。

（５－２）投票結果報告【資料 53-5】

事務局より、規格委員会と原子力専門委員会の書面投票の結果が報告された。

（５－３）公衆審査結果、質問受付回答結果：【資料 53-6】

事務局より、発電用原子力設備規格に関する公衆審査結果、質問受付と回答結果が報告された。回答は専門委員会で審議・承認済みで、質問者に回答済みである。

（５－４）火力専門委員会報告【資料 53-7】

木村火力専門委員会委員長より、火力専門委員会の活動状況が報告された。特記事項は以下の通り。

- ・発電用火力設備規格の改訂状況から、次々回の規格委員会で規格案の説明を目標とする。

（５－５）原子力専門委員会報告【資料 53-8】

小山原子力専門委員会委員長より、原子力専門委員会の活動状況として、材料規格の改訂版発行に向けた材料規格改訂方針検討タスクでの検討状況、各分科会・タスクの活動実績と活動計画における高速炉材料の規格化計画の追加等が報告された。

（５－６）核融合専門委員会報告【資料 53-9】

高橋核融合専門委員会副委員長より、核融合専門委員会の活動状況として、超伝導マグネット規格の英訳合本版の書面投票対応、ITER 超伝導マグネットの技術開発と調達の実現について報告があった。

（５－７）材料専門委員会報告【資料 53-10】

高橋材料専門委員会副委員長より、材料専門委員会の活動状況が報告された。特記事項は以下の通り。

- ・材料現象に関する解説について、原案を作成する。ASME SecII の non-mandatory appendix がベースとなる。

（６）発電用設備規格委員会運営に関する審議／報告（幹事会報告）

〔審議事項〕

（６－１）JSME 規格体系化推進計画「一般要求事項検討会」【資料 53-11-1】

宮口副委員長より、JSME 規格体系化推進状況（一般要求事項検討会）について報告された。

メンバー、検討項目、全体・詳細スケジュールが説明された。なお、名称を「タスク」から「検討会」とすることについて報告があったが、幹事会が扱いについて協議し、必要な手続きを進めることとなった。

主な議論は以下の通り。

- ・一般要求事項の当面の対象は、軽水炉である。高速増殖炉，新型炉，核融合，火力等は，将来的課題と考えている。
- ・タスクの設置について書面投票が必要との議論があったが、明示的に「タスク設置には書面投票が必要」

と記されている専門委員会運営規約（第8条2.(2)）と異なり、規格委員会運営規約（第8条2.(2) d）には「専門委員会等の設置に書面投票が必要」と記載されているだけでタスク設置に書面投票が必要とは明示的に読めない。元々の規約は、書面投票は「専門委員会」設置に必要との記載であった。後に「等」をつけて改訂された経緯があるので、当時の運営規約に戻って専門委員会運営規約との差異を再度確認し、必要に応じて、両者の整合性を図るべきでは、ないか。

（6－2）「規格委員会資料の取扱い内規」の提案【資料53-11-2】

齋藤原子力専門委員会委員より「規格委員会資料の取扱い内規」の提案について説明が行われた。本案は原子力専門委員会書面投票により可決されたもので、議論の結果、火力、核融合、材料の各専門委員会では本案が問題ないか、書面投票を実施することになった。

（6－3）技術評価における要件および要望に対する機械学会の検討状況について【資料53-11-3】

小山原子力専門委員会委員長より技術評価における要件および要望に対する機械学会の検討状況について説明が行われた。議論の結果、本案で原子力学協会規格協議会に報告を行うことが承認された。

〔報告事項〕

（6－4）MDEP 対応状況【資料53-11-4】

宮口副委員長、永田原専副委員長より MDEP 対応状況について説明が行われた。クラス1 容器の比較検討のまとめを実施中であること、JSME 独自にクラス2 機器について JSME/ASME の比較検討を行うこと、MDEP-CSWG から各国規格の harmonization のための規格の階層化に関して意見を求められた結果等が報告された。

（6－5）「材料規格改訂方針検討タスク」の状況報告【資料53-11-5】

齋藤原専委員より「材料規格改訂方針検討タスク」の状況について説明が行われた。材料規格改訂については改訂を2段階に分けて1次改訂は改訂の主要部分で比較的合意の得やすい範囲を設定したこと、改訂は設計建設規格2005年版（含2007追補版）をベースとすること、現在までに4回タスクが開催されて検討方針が固まったこと、第59回臨時原子力専門委員会にて改訂方針が審議されたこと、原子力専門委員会書面投票により各委員から意見を頂戴したこと等が報告された。

（6－6）平成22年度活動計画（案）（原子力専門委員会）【資料53-11-6】

小山原専委員長より各分科会・タスク活動実績と活動計画について説明が行われた。特記事項としては高速炉材料の規格化計画が追加されたことが報告された。

（6－7）平成21年度活動実績報告書【資料53-11-7】

事務局より平成21年度規格委員会の活動実績報告書について説明が行われた。現在JSME規格策定活動に対して主要企業から参加負担金を頂戴しているが、これに対する成果報告として作成されたものである。コメント等あれば事務局に連絡し、目標として8月頃には報告書を各企業に送付することになった。

（6－8）標準・規格センターに関する報告【資料53-11-8-1～3】

事務局より、標準・規格センターにおける規格審議進捗状況について説明が行われた。

（7）発電規格に関する審議／核融合発電規格に関する審議【資料53-13-1～2】

高橋核融合専門委員会副委員長より、核融合発電規格超伝導マグネット構造規格（2008年版）の英訳合本版の意見対応に関し説明があった。審議の結果、英訳意見対応案について、賛成22、反対0、保留1で承認された。正誤表について、意見対応結果を反映した完成版が提出され、併せて了承された。

審議時の主な意見は以下の通り。

- ・ 日本語に記述がなく、英訳に記述がある場合の扱いが疑問である。日本で常識のことが海外では当てはまらないことがあるため追記したとの説明だが、もし訴訟等に発展した場合、和文が正なので無効になってしまうのではないか。
- ・ 例で、近距離視力検査30.5cmは和文にないことについて、英訳に注記すべきではないか。

- ・ 以上について、核融合専門委員会で検討し、必要な措置をとることとなった。

(8) 発電規格に関する審議／火力発電規格に関する報告【資料 53-12】

木村火力専門委員会委員長より、高クロム鋼クリープ関連項目の規格規定反映計画（案）に関し説明があった。報告を受け、今後具体的な規格案が審議に上がってきた段階で、詳細を審議していくこととなった。

主な意見は以下の通り。

- ・ 維持規格とあるが、原子力で使用している用語のイメージを踏襲すると、検査・評価・補修が含まれる。火力では体系的な維持基準がなく、原子力と同等の規格化は予定していないとのことなので、「維持規格」の呼び方は再検討のこと。
- ・ 将来の方向性は、維持要求に係る事項について、個別の事例規格化を進めていくイメージである。
- ・ 火力設備規格は、10万時間の設計寿命を考慮した許容応力が設定されている。高クロム鋼に関しては、長時間側のクリープデータの低下が当初より大きい事が判明したことから、寿命評価式を追加して管理されている。今回、長時間クリープデータの追加により、さらに何らかの見直しが必要と想定されるため、検討しているもの。
- ・ 材料専門委員会、火力専門委員会でデータチェックをどこまで実施するのか。議論の透明性・公開性と、資料の取扱いにおける配慮との両立の問題がある。原子力では、金属キャスクのアルミ材で実例がある。
- ・ 生データの取扱いについては、JSME ルールも含め検討が必要。

(9) 発電規格に関する審議／原子力発電規格に関する審議

(9・1) 溶接規格に関する審議

溶接分科会の杉江幹事より溶接規格改訂案について説明が行われた。内容は以下の通り。

①事例規格 母材のP-No 区分【資料 53-14】

事例規格 母材のP-No 区分（案）について説明が行われた。本件は原子力専門委員会書面投票実施済で、原子力専門委員会書面投票可決を条件に、発電用設備規格委員会書面投票を実施する提案が委員全員の賛成により承認された。

(9・2) 設計・建設規格に関する審議

①設計・建設規格第Ⅰ編 2010 年追補版改訂案修正提案【資料 53-15-1】

設計・建設分科会の永田主査より、設計建設規格第Ⅰ編 2010 年追補版改訂案における管フランジの JIS B2238(1996)から JIS B 2220 (2004)への変更対応もれについて説明が行われた。変更対応もれしていた容器、ポンプ、弁は2010 年追補版では改訂せず、単に別表 2 を別表 2-1 に修正する提案が編集上の修正であること、修正案を公衆審査原稿に反映することが委員全員の賛成により承認された。

②設計・建設規格第Ⅰ編 2008 年版正誤表提案【資料 53-15-1】

設計・建設分科会の永田主査より、設計建設規格第Ⅰ編 2008 年版正誤表提案について説明が行われた。議論の結果、配管関係の 2 件の正誤表提案が委員全員の賛成により承認された。

③設計・建設規格第Ⅰ編 2010 年追補版公衆審査提案【資料 53-15-3】

事務局より設計建設規格第Ⅰ編 2010 年追補版公衆審査提案について説明が行われ、委員全員の賛成により承認された。

(9・3) 材料規格に関する審議

①材料規格 J I S 年版読替事例規格規格委員会投票結果及び公衆審査計画【資料 53-16-1】

事務局より材料規格 J I S 年版読替事例規格改訂案規格委員会投票結果及び公衆審査計画について説明が行われ、委員全員の賛成により承認された。

②材料規格一次改訂に関する作業フロー及びマスターシート【資料 53-16-2, 3】

材料分科会の山田主査より、材料規格一次改訂に関する作業フロー及びマスターシートについて説明が行わ

れた。材料規格一次改訂案は次回の発電用設備規格委員会にて書面投票予定とのことであり、午前中に材料規格改訂方針検討タスク齋藤主査より説明のあった材料規格改訂方針（資料 53-11-5）と合わせて書面投票の形で御意見を寄せることが委員全員の賛成により承認された。なお資料 53-16-3 は参考資料の扱いとなった。

（９・４）コンクリート製格納容器規格に関する審議

コンクリート製格納容器規格分科会の小林幹事より、コンクリート製格納容器規格改訂案の発電用設備規格委員会書面投票に対する回答案について説明が行われた。議論の結果、反対票は取り下げられず、委員多数の賛成（賛成：21 票；保留：1 票）で２週間の期間で２次投票の実施が承認された。また２次投票可決後、機械学会標準・規格センター運営・企画委員会との公衆審査実施の調整が済むという前提で、公衆審査実施の提案が委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・「異常とは、冷却材喪失事故をいう。」とのことであるが、冷却材喪失事故は異常ではなくて事故ではないのか。→本記載は本規格の前身の旧 C C V 告示等をベースにしており、用語もそれになっている。
- ・２次投票の期間を２週間としたが、その根拠は？→今回の２次投票では論点が明確になっているので委員会の審議を経て２週間としたが、Due Process との関連もあり、審議要領上もそのような記載を加えた方が良いかもしれない。

（９・５）使用済燃料貯蔵施設規格に関する審議

①金属キャスク事例規格案（キャスク用 3.5%Ni 材の新規登録）【資料 53-18-1】

使用済燃料貯蔵施設分科会の三枝主査、下条委員より、金属キャスク事例規格案（キャスク用 3.5%Ni 材の新規登録）について説明が行われた。本案は原子力専門委員会２次投票で可決しており、議論の結果、書面投票の実施が委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・設計応力強さについて、260℃の S_m のみ ASME の CUSTOMARY TABLE から用いているが、この理由は？→ASME では最高使用温度が 260℃（500° F）まで認められているが、METRIC TABLE は 250℃までであり、260℃の S_m の METRIC 数値がないためである。

②金属キャスク構造規格 2010 年追補版案【資料 53-18-2】

使用済燃料貯蔵施設分科会の三枝主査、阪田委員より、金属キャスク構造規格 2010 年追補版案について説明が行われた。本案は、原子力専門委員会書面投票により可決しており、議論の結果、発電用設備規格委員会書面投票を実施する提案が委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・GLF 材の溶接施行法試験におけるシャルピー衝撃試験要求値の追記に「研究開発段階にある発電用に供する原子炉の溶接の方法の認可について」が記載されているが、この理由は？→GLF 材料のシャルピー衝撃試験要求値が溶接規格等に示されていない。過去に輸送キャスクでは、旧科技庁の規制、許認可を受けてきたことから、この内規を用いてきた実績があるため、その値を記載している。

（９・６）維持規格に関する審議

①補修章の検査章・評価章との体系化及び技術基準との適合性の明確化案【資料 53-19-1】

維持規格分科会の野村主査、補修作業会の山本主査より、補修章の検査章・評価章との体系化及び技術基準との適合性の明確化案の規格委員会２次投票（可決）意見回答（案）に関する説明が行われた。議論の結果、回答（案）並びに回答（案）が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

②事例規格・ニッケル合金の PWR 一次系水質環境中の SCC き裂進展速度案【資料 53-19-2】

維持規格分科会の野村主査、評価作業会の北条主査より、事例規格・ニッケル合金の PWR 一次系水質環境中の SCC き裂進展速度案の規格委員会書面投票（可決）意見回答（案）に関する説明が行われた。議論の結果、回答（案）並びに回答（案）が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・Alloy132 と Alloy82 の母集団を同一とみなすこと、また同一とした場合に平均+2 σ の範囲より大きなデータがあることにに関して規格（解説）に追記してはどうか？→検討経緯についてはコメント回答として記載しているが、JSME の論文等に投稿することを検討する。

③検査章の改訂（目視試験対象範囲案）【資料 53-19-3】

維持規格分科会の野村主査、検査作業会の太田主査より、検査章の改訂のうち、目視試験の試験対象範囲案の規格委員会書面投票（可決）意見回答（案）に関する説明が行われた。議論の結果、回答（案）並びに回答（案）が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

④応力拡大係数算出式の追加案【資料 53-19-4】

維持規格分科会の野村主査、評価作業会の北条主査より、応力拡大係数算出式の追加案の規格委員会書面投票（可決）意見回答（案）に関する説明が行われた。議論の結果、回答（案）並びに回答（案）が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

⑤耐圧試験規定の見直し案【資料 53-19-5】

維持規格分科会の野村主査、補修作業会の山本主査より、耐圧試験規定の見直し案の規格委員会書面投票（可決）意見回答（案）に関する説明が行われた。議論の結果、回答（案）並びに回答（案）が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

⑥建設中の供用前検査実施時期案【資料 53-19-6】

維持規格分科会の野村主査、検査作業会の太田主査より、建設中の供用前検査実施時期案に関する説明が行われた。議論の結果、規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

⑦ピーニング方法の改訂案【資料 53-19-7】

維持規格分科会の野村主査、補修作業会の山本主査より、ピーニング方法の改訂案に関する説明が行われた。議論の結果、規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

⑧クラス 1 機器の欠陥評価関連規定の改正案【資料 53-19-8】

維持規格分科会の野村主査、検査作業会の太田主査より、クラス 1 機器の欠陥評価関連規定の改正案に関する説明が行われた。本案は現在原子力専門委員会 2 次投票を実施中であり、議論の結果、原子力専門委員会 2 次投票可決を条件に、規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

⑨事例規格 欠陥評価における JEAC4601-2008 に基づく地震動の扱い案【資料 53-19-9】

維持規格分科会の野村主査、町田幹事より、事例規格 欠陥評価における JEAC4601-2008 に基づく地震動の扱い案に関する説明が行われた。本案は現在原子力専門委員会 2 次投票を実施中であり、議論の結果、原子力専門委員会 2 次投票可決を条件に、規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・本案は JEAC4601-2008「原子力発電所耐震設計技術規程」に基づき欠陥評価に用いる地震動として基準地震動 S1 を弾性設計用地震動 Sd、基準地震動 S2 を基準地震動 Ss に置き替えることを規定した事例規格である。

・Ss 評価の場合、建物の場合は降伏点を超過しても 0.2%歪みまでは許容できるとしており、それでは建物の断面計算ができないので、弾性設計用地震動 Sd を用いて建物の断面計算を行っている。維持規格における機器の健全性評価に弾性設計用地震動を使用しても良いのか？→詳細は別途維持規格の改訂の中で検討するが、現状では JEAC4601-2008 を用いて欠陥評価を行うことができないため、それを可能にするため本案を提案した。

⑩検査章の改訂案【資料 53-19-10】

維持規格分科会の野村主査、検査作業会の太田主査より、検査章の改訂案に関する説明が行われた。本案は現在原子力専門委員会の投票中であり、議論の結果、原子力専門委員会書面投票可決を条件に、規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

⑪維持規格 2009 年追補版 正誤表案【資料 53-19-11】

維持規格分科会の野村主査、検査作業会の太田主査より、維持規格 2009 年追補版 正誤表案に関する説明が行われた。議論の結果、正誤表案は委員全員の賛成により承認された。

⑫事例規格・ニッケル合金の PWR 一次系水質環境中 SCC き裂進展速度案意見受付計画案【資料 53-19-12】

事務局より事例規格・ニッケル合金の PWR 一次系水質環境中の SCC き裂進展速度案に対する意見受付計画案が説明され、委員全員の賛成により承認された。

(9・7) 再処理設備規格に関する審議

①再処理設備 設計規格 (2010 年版) 現行案 (公衆審査版) と修正案との比較【資料 53-20-1】

再処理設備分科会の加納幹事より、再処理設備 設計規格 (2010 年版) において、公衆審査時等において誤記が確認されたため、その修正案について説明が行われた。議論の結果、修正案が委員全員の賛成で承認された。

②再処理設備 設計規格 (2010 年版) に関する発行計画 (案)【資料 53-20-2】

事務局より再処理設備 設計規格 (2010 年版) に関する発行計画 (案) が報告され、了承された。

(10) 関連機関状況報告【資料 53-21-1】

齋藤原子力専門委員会委員より ASME 規格関係委員会の活動状況報告について説明が行われた。

(11) 次回開催予定

今後の発電用設備規格委員会の開催時期は以下の通りとなった。

- ・第 54 回規格委員会 : 9 月 9 日 (木)
- ・第 55 回規格委員会 : 12 月 9 日 (木)

以 上